

# 江上 博之 議員(市・共産)からの質問への回答

## 質問テーマ：

自然環境の観点から、名古屋港で発生するしゅんせつ土砂をどうするか

### 質問1 環境保全の観点から、しゅんせつ土砂を活用した実績はどうか？

#### 回答1

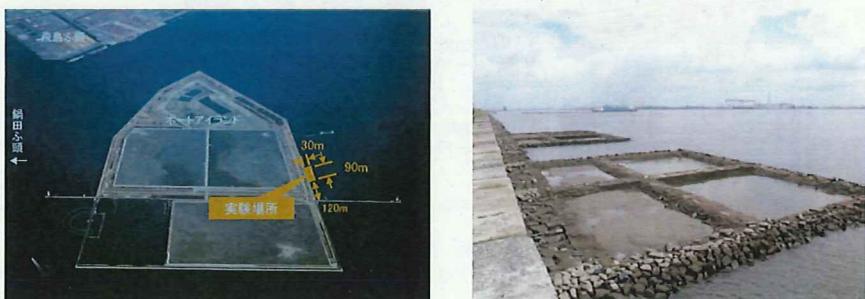
- 名古屋港において、環境保全の観点からしゅんせつ土砂を活用した実績はございませんが、港内で発生するしゅんせつ土砂につきましては、環境影響評価を経て、港湾機能の拡張や産業立地等に必要な土地を造成するための用材として活用しております。

### 質問2 今後、しゅんせつ土砂を活用するために、検討はしているのか？

#### 回答2

- 中部地方整備局においては、良好な港湾環境の形成の観点から、平成24年度から29年度まで、しゅんせつ土砂を一部活用した人工干潟の造成に関する実証実験を、ポートアイランドの東側で行い、本組合も、実験を企画・検証する検討委員会に参画しました。

(実験施設) 規模 90m × 30m



#### (結果)

- しゅんせつ土砂は、干潟を造成する材料として適用可能であることが確認されました。
- 課題として、波高の高い海域における干潟の長期安定性の確保が挙げられております。
- 生物多様性に配慮し、埋立てによる海域環境への負荷軽減を図るため、令和元年度から、西部地区において、浅場造成に向けた調査を進めてまいります。

#### (調査箇所)



**質問3 山から河川を通って発生している土砂で海を埋めるだけでなく、元の所に戻すとか、他の利用を行うという考えはあるのか？**

**回答3**

- 回答2でお答えしましたように、海域環境への負荷軽減に活用することを考えております。

**質問4 大江川の埋立て用材として、しゅんせつ土砂を活用しないのか？**

**回答4**

- 大江川においては、公害防止事業（昭和54～61年度）により汚染土壤が封じ込められており、大規模地震発生時には液状化による流出が懸念されることから、その対策として、非液状化材での覆土を行い、早期にリスク軽減を図る必要があります。
- 造成材の選定については、今年度の基本設計の中で検討してまいります。

